



結小だより

- ★自分で学ぶ子
- ★仲よく助け合う子
- ★自分でできたえる子



結小学校 ふるさとから世界とつながるプロジェクト

校長 中野 由美

結小学校ではこれまで、生活科や総合的な学習の授業で、ふるさと結地区の自然や文化、歴史を学んできました。今年度は、その学びを一步前に進め、ふるさとのよさを世界に発信し、世界とつながるプロジェクトに取り組んでいます。

6月11日(水)には、「なかよし学園」の中村雄一校長先生をお招きし、学年ごとに講話をしていただきました。中村先生は、世界の国々(主に開発途上国や紛争地域)を訪れ、教育支援を行っています。講話では、中村先生が見た世界の子どもたちの様子や、彼らが抱える問題を聞きました。その様子は、日本で生きる自分たちと違うことばかりで、子どもたちにとっては驚きの連続でした。



- みんなの未来に待ち受けているのは、「未知の世界、答えがない世界」
- 答えがない世界で大事なことは、「自分で考えること」
- まず、世界を知る → 自分たちと違うところではなく同じところを知る
- 平和はどうやって作るのか? 世界はどうやったら笑えるのか?

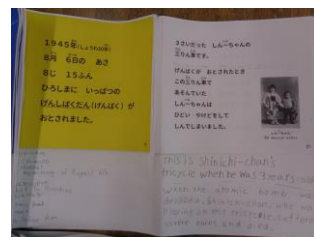
(お礼の感想抜粋)・・・戦争が起こる理由は、自分が辛くなった時に、他人と違うところばかり見て、相手から何かを奪うことしかできないから。

・・・戦争を止めるためには、相手と自分の同じところを見つけることが大切だと知って、自分が辛い時に自分のマイナスばかり見ず、自分のプラスを大切にしていきたい。(6年 大橋 陸人さん)



子どもたちはこれから1年かけて、「平和はどうやってつくるのか? 世界はどうやったら笑えるのか?」という問いの答えを探します。私が今年度大切にしたいことは、ただ考えるだけではなく、実践させ、実際に世界とつながったという実感をもたせ、自分たちにもできることがあるという自信をもたせることです。ふるさと結で学んでいることは、世界の平和につながる価値あることだと気付かせることです。

講演の後、中村先生はケニアで国連関連会議に出席したり、「はじめてのヒロシマ」という本を使って現地の学校で授業を行ったりしました。日本語で書かれた本に、結小学校の6年生が英語の訳を付けました。その本は、ケニアの学校に寄付されました。世界とつながり始めた結小学校です。



6年生が英訳した本



本を使って授業をする
中村先生

結ぶ手と手が輪になって ～結小学校の輝き～

親子防災教室



1年生：水消火器



2年生：防災クイズ



3年生：非常持ち出し袋



4年生：給水タワー



5年生：避難所・簡易ベッド



6年生：土嚢・杭打ち

保護者の皆様には、6月13日（金）の親子防災教室にご出席いただき、ありがとうございました。「暑い中だったが楽しかった」、「子どもと一緒に活動することで、家庭で防災を話題にする機会が増える」とのご意見をいただきました。

また、当日は学校運営協議会委員の皆様にも授業の様子をご覧いただきました。子どもが小さなうちから防災に触れ、学年が上がるにつれて地域の一員として活躍できるよう計画的に指導しているので、地域としても心強いというお言葉をいただきました。

安八町役場をはじめ、地域の力に支えられ、教室を開催することができました。ありがとうございました。

お願い

6月19日に「塩分補給タブレット（熱中症対策）の持参について」という文書をお届けしました。保護者の皆様にはご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。

先日、下校時に歩きながら自分の塩分タブレットを食べる児童がいましたが、学校（帰りの会）で補給すれば、下校中に補給する必要はありません。また、児童の体調を心配して、下校中に塩分タブレットをくださる地域の方もおられるようですが、学校では「人からもらわない・口に入れない」を徹底して指導しています。全国では、もらったジュースを口にして体調を崩した、というニュースもあります。

下校中のことで十分に見届けすることができませんが、ぜひご家庭でも話題にいただき、児童が適切に判断して安全に過ごせるようお話してください。